なきうさぎのこえ

え：いぶき　さく：もみじ

畑の雪がとけて、茶色い土が見えてきました。
僕は今日、お父さんといっしょに山の麓までいきます。
道中、お父さんがいいました。
「ナキウサギっていう動物を知ってる？」
「しらない。ウサギなの？」
「かわいい声でなく耳の短いウサギだよ」
「どんな声をだすの？」
お父さんは「キュンッ」と鳴きまねをしました。
「かくれんぼが上手で、お父さんも見たことはないんだ。運がよければあえるかもしれないね」

山の麓では雪がとけて、小さな川ができていました。
まわりには、動物の足あとがついています。
「ナキウサギのあしあと？」と僕はお父さんにたずねました。
「これはキタキツネの足あとだね。ナキウサギの足あとはもっと小さいよ」

木の上でなにかが動きました。
見上げると、大きな、柔らかそうな尻尾を振って、動物がかけていきます。
「お父さん！なにかいる！」

お父さんも木の上を見上げて、言いました。
「エゾリスだ」

エゾリスは、木の上で動きを止めて、こちらをみました。
それから、もっと上のほうへかけ上っていき、見えなくなりました。

ナキウサギはなかなかみつかりません。
「本当にいるの？」
たずねると、お父さんが教えてくれました。
「敵に見つからないように、岩の影や穴に住んでいるんだよ」

でこぼこした岩場にのぼり、窪みをのぞくと
ちいさな、ピンク色の蕾をみつけました。
「わあ、花がさいてる」
「コマクサだね。四月には珍しいな」

白い雪と黒い岩のあいだで、コマクサの色は
瑞々しく、光ってみえました。

さがしまわって
だんだん日が暮れてきました。

空気がしんと冷えて
頬が冷たくて、ひりひりします。

「やっぱり、いない」

悔しくて、さびしい気持ちになってきた
そのとき

「キュン！」

後ろでかんだかい動物のなき声が聞こえました。

後ろでかんだかい動物のなき声が聞こえました。

はっと振(ふ)り返(かえ)りましたが、岩場(いわば)があるばかりです。

「ナキウサギ、みつかった？」
「ううん。でも、声(こえ)はきこえたよ」
「そうか、じゃあ雪(ゆき)がなくなったころに、またこようか」
「うん！」